

大学生と農山漁村との連携事例



龍谷大学

実施主体名: 政策学部 政策実践・探究演習
「南丹プロジェクト」

担当窓口

政策学部教務課

URL

<https://www.policy.ryukoku.ac.jp/department/class/practice.html>



活動内容

「南丹プロジェクト」は、2021年度より京都府南丹市日吉町の地域振興組織：世木地域振興会と連携を始め、持続可能な農村づくりのため、地域資源を活かした商品の開発やフェノロジーカレンダーの作成に地域の皆さんとともに取り組んできました。2024年度は次の3つの活動に取り組みました。

- ①地域の伝統食「納豆餅」を通した地域ブランディング活動：味ヴァリエーションの多様化と商品化に成功。
- ②世木環境農産物認証基準の策定と試験運用：認証基準を4段階に分けることで生産者にインセンティブを付与（レベル1：地場産であれば認証可、レベル2：特別栽培基準を準用、レベル3：有機栽培基準を準用、レベル4：地域産有機資材を使った循環型農法）
- ③「世木地域ツーリズムMAP」の作成：世木地域を構成する4集落の関係深化＋関係人口の創出ツールとして、年間を通じた地域資源を一覧で把握できるフェノロジーカレンダーとセットにして作成。



きっかけ

この地域で活動する前は、近隣の別の自治体をフィールドに活動していました。その様子を取り上げた地元新聞の記事を見た世木地域の住民の方（本学の同窓生）から相談を受けたことがきっかけです。その後、世木地域に活動フィールドを移し、初年度は地域の皆さんとの関係づくり、2年目から共同でブランド米の開発を始めました。



展望

地域の皆さんの、よそ者・若者への期待とホスピタリティの厚さ、それに応じて学生が地域に対する愛着や信頼関係を深めてきました。双方向の関係性が活動の発展的継続に不可欠です。4年間かけて、これまでの成果を目に見える形で示すところまで行き着きました。今後は、これまで開発した商品やMAPを手がかりに、地域側が主導的に活動をすすめていくためのビジネスモデルの構築、担い手としての組織体制づくりが課題です。大学のもっている専門的知見を活かし、地域の潜在的な人材の発掘・育成に向けて協働していきたいです。



（地域の皆さんとともに）



（納豆餅の試作風景）



（完成した納豆餅）



（農産認証基準
Lv.1のマーク）



（世木地域ツーリズムMAP）